

白打ちの必要性とデータ(白版)の作り方

白打ちの必要性

クリアファイルの印刷で**白打ち**が必要な場合は、大きく分けて**3通り**あります。

1. カラーの写真やイラストを入れる場合

白い紙に**4色カラー**を印刷する場合、写真等の絵柄の中の白い部分は**紙の色の白**を使い、その他の色の部分を**CMYK**の4色で色をつけていきます。クリアファイルは透明の**PP(ポリプロピレン)**を使用していますので、白打ちをしないと、写真等の絵柄の中の白い部分が**透明**になってしまいます。それで、**写真やイラスト**の後ろには**白色を印刷**しなければなりません。

2. クリアファイルの中に入れる書類を透けさせたくない場合

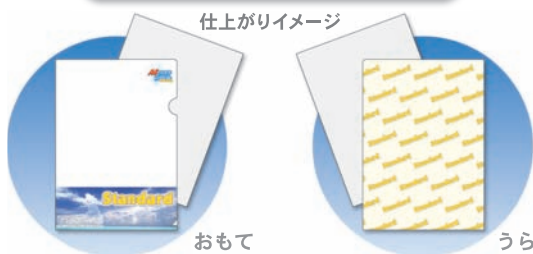
通常の**カラーインキ**は**透明インキ**で、PPに何色を印刷しても中が透けてしまいます。白打ち用の**白インキ**は**不透明インキ**ですので、中に入れる書類を**透けさせたくない場合**は白打ちをします。

3. 白色をデザインとして使用する場合

白色を**デザインとして利用**する場合は白打ちが必要になります。「**白い文字や図形**を入れたい」「**白ベタ**を印刷したい」「**白ベタ**を印刷して更に**白抜き**(この場合の白抜きの部分は透明になります)がしたい」という場合です。

白版作成パターン(弊社クリアファイルシリーズ~Standard~の場合)

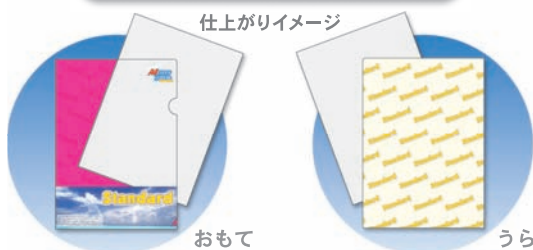
中に入れる書類は透けません



白を全面(表・裏)に印刷する事により中の書類は透けません。逆に、白を印刷しないと、中の書類は透けます。

※ 判りやすいように白インキを黄色で表しています。

白を引かない部分だけ透けます



表面は右上のロゴ部分と下の写真部分に白を印刷し、裏面は全て白を印刷します。白を印刷していない部分は透明になりますので、表面から見て白を印刷していない部分だけ、中の書類が透けます。

※ 判りやすいように白インキを黄色で表しています。

白を利用して文字を入れたりする事もできます



表面は右上のロゴ部分と下の写真部分に白を印刷し、裏面はロゴのみ白を印刷します。表・裏面ともに透明部分ができ、中の書類が透けます。また、表面に白で文字を入れ、白版をデザインの一部として使用しています。このように、白版を工夫する事により、デザイン性の高いクリアファイルになります。

※ 判りやすいように白インキを黄色で表しています。

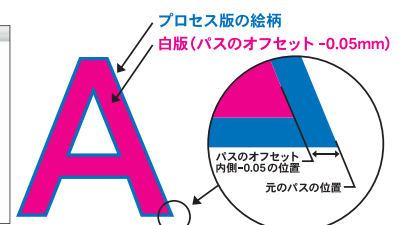
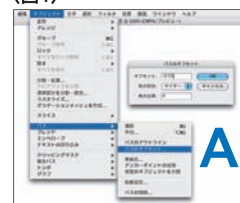
データ(白版)の作り方

- ◎ プロセス版と同じファイル内でレイヤーを作成し、「白版用」と名前をつけて下さい。
- ◎ 白版のデータは※1Illustratorのパスで作成し、特色(DIC Color)で色をつけて下さい。
- ◎ 白を打ちたいプロセス版のオブジェクトを選択し、『コピー』→『白版用レイヤー』に『前面ペースト』。そして、『オブジェクト』→『パス』→『パスのオフセット』からオフセット幅を実際の絵よりも※2内側0.05mmに入れて作って下さい。(図1参照)

※1 Photoshop画像による白版の作成はエッジの制度が悪くなる他、万が一ズレていた場合に対処しかねます。

※2 印刷時のPPの伸縮により白版がプロセス版より外にはみ出るのを防ぐためです。

(図1)



もっとデザインの幅を拡げたいという皆様には、大洞印刷のオリジナルカラーチャートをお勧めします。

白打ちがある場合と無い場合の色が一目瞭然! クリアファイルのデザインには必須アイテムです!

カラーチャートのページ <http://www.bora-net.com/pickup/>